

## 「キャンパスマスタープラン2013」 点検・見直し



2号館(環境都市工学科校舎)

竣工(改修):2016.2/規模:地上3階 1,792 m<sup>2</sup>



1号館増築棟(エレベーター)

竣工:2016.1/規模:地上3階 44 m<sup>2</sup>



第一体育館

竣工(改修):2016.3/規模:地上2階 1,400 m<sup>2</sup>



平成28年8月

岐阜工業高等専門学校財務・施設委員会  
キャンパス整備ワーキンググループ

# 目次

I . 「キャンパスマスタープラン2013」の点検・見直しと 「岐阜高専キャンパスマスタープラン2017」策定 について	.....1
II . 「キャンパスマスタープラン2013」実施した主な取組内容、 今後の計画	.....2
III . 「キャンパスマスタープラン2013」の点検・見直しについて	.....4
IV . キャンパス整備ワーキンググループメンバー	.....14

# I. 「キャンパスマスタープラン2013」の点検・見直しと「岐阜高専キャンパスマスタープラン2017」策定について

岐阜高専では2012年度にキャンパス整備ワーキンググループ及び財務・施設委員会にて審議を重ね、2013年5月に「キャンパスマスタープラン2013」を策定した。

第三期中期目標・中期計画（平成26年4月～平成31年3月）及び国立高専機構施設整備5か年計画（平成28～32年度）にあわせた新たなキャンパスマスタープランの策定が必要となるため、「キャンパスマスタープラン2013」の点検・見直しを実施して改善事項を整理し、「岐阜高専キャンパスマスタープラン2017」の策定に着手する必要がある。

これらの状況を踏まえ、2016年6月から点検・見直しのための作業を行い、8月にキャンパス整備ワーキンググループにて点検・見直しの審議を行った。

「岐阜高専キャンパスマスタープラン2017」の策定については、点検・見直しによる改善事項を踏まえて、2016年9月から着手することとした。

■キャンパスマスタープランの成長(キャンパスマスタープラン2013の改定)

		2016年										2017年			備考
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
全体日程		準備期間		見直し		着手		キャンパスマスタープラン策定		まとめ	承認	運用開始			
「キャンパスマスタープラン2013」の見直し			確認・検討					基本構成検討 資料収集 素案作成 原案作成							
基本方針の策定	アカデミックプランの関連性												・高専が果たす役割に対して、既存施設で対応しうるか検討		
	経営戦略との関連性												・経営資源の一つである土地及び施設の効果的な活用について検討		
	キャンパスの基本的な情報の整理												・キャンパスの現状把握		
	キャンパスの個性や普遍的要素の確認												・高専らしさを醸し出す要素を探り出し整理		
整備・活用方針の策定	整備方針の策定												・現状把握の結果を踏まえた整備の方向性を定める		
	活用方針の策定												・施設の利用実態を踏まえ経営的観点から有効活用の方向性を定める		
部門別計画の策定	ゾーニング計画														
	パブリックスペース計画														
	動線計画														
	建物配置計画														
	環境・建築計画														
備考(合意形成)	WG(キャンパス整備WG)及び財務・施設委員会(時期予定)で審議				WG						WG				
									財務・施設委員会			財務・施設委員会			

## Ⅱ. 「キャンパスマスタープラン2013」実施した主な取組内容、今後の計画

### 1. 行動計画：「ビジターフレンドリーな岐阜高専」に基づいたキャンパス整備

(第3次5か年計画に基づく大規模改修等)

計画概要：「地域交流の核」・「学生にとって魅力のある」・「グローバル人材を育成する」岐阜高専としてさらに発展していくために、第3次5か年計画に基づく大規模改修等を実施する。

取組内容：①H24. 施設整備費補助（金）事業にて校舎改修（機械工学科系）を実施（内外部全面改修、外構ウッドデッキ等整備）

②H26. 寄付金にて福利施設食堂改修を実施（食堂の一部をレセプションホールとして兼用できるように整備）

③H27. 施設整備費補助（金）事業にて校舎改修（環境都市工学科系）を実施（環境都市工学科内外部全面改修、電気情報工学科外部全面改修、外構整備）

④H27. 運営費交付金＋施設整備費補助（金）事業にて第一体育館等改修を実施（第一体育館内外部全面改修、第二体育館非構造部材耐震化に伴うバスケットボール・照明設備（LED化）改修、武道館特定天井改善に伴う天井改修、安藤記念館照明設備落下防止対策工事）

### 2. 行動計画：動線計画に基づいた「メインロード」の整備

計画概要：校舎間を連絡する通路（渡り廊下棟等）の内部動線を歩きやすく、分かりやすく、気持ちよく目的地に到達できるように玄関ホールや通路等を整備する。

取組内容：①H23. 玄関ホールを整備（給湯室・総合案内サイン整備共）

②H24. 1階渡り廊下棟部分の部屋等を移設しリフレッシュコーナー（フロインデ・ホール）を創出した。

③H24. 施設整備費補助（金）事業にて校舎改修（機械工学科系）を実施

④H27. 施設整備費補助（金）事業にて校舎改修（環境都市工学科系）を実施

今後の計画：4号館の内外部全面改修、一般教室棟廊下等改修を計画

### 3. 行動計画：動線計画に基づいた「いぶきストリート」の整備

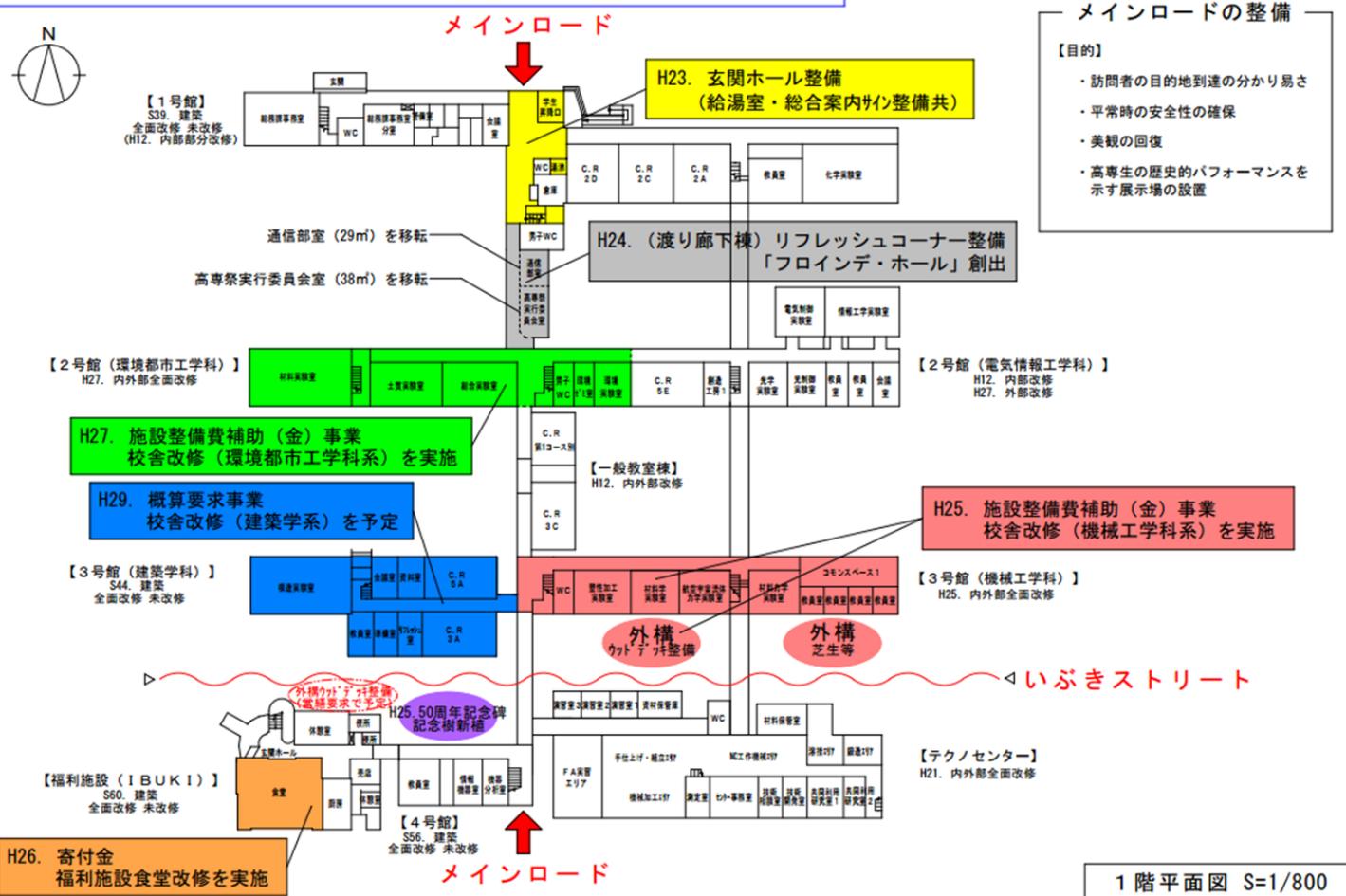
計画概要：福利施設（いぶき）沿いの動線を外来者からも分かりやすく集いやすい環境に整備する。

取組内容：①H24. 施設整備費補助（金）事業にて校舎改修（機械工学科系）の外構整備にて「いぶきストリート」の東側にウッドデッキを整備した。

②50周年記念碑の建立及び記念樹の新植に伴う整備を実施した。

今後の計画：福利施設（いぶき）北側（「いぶきストリート」の西側）等にウッドデッキ等整備を計画

「キャンパスマスタープラン2013」実施した主な取組内容、今後の計画



**メインロードの整備**

【目的】

- ・訪問者の目的地到達の分かり易さ
- ・平常時の安全性の確保
- ・美観の回復
- ・高専生の歴史的パフォーマンスを示す展示場の設置

1階平面図 S=1/800

### Ⅲ. 「キャンパスマスタープラン2013」の点検・見直しについて

01. 岐阜高専の概要	点検・見直し
◆国立高等専門学校機構の概要	
<p>国立高等専門学校機構は昭和36年、我が国の経済高度成長を背景に、産業界からの強い要望に応えるため、実践的技術者の養成を目指し、中学校卒業者を入学資格とする5年制の高等教育機関として学校教育法の改正により、工業に関する高等専門学校を制度化したことに始まりました。</p> <p>翌昭和37年以降、順次各地に高等専門学校の設置を進め、現在全国に51高専（55キャンパス）を設置しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に問題なし</li> </ul> <p>(適用：CMP2017)</p>
◆岐阜工業高等専門学校の概要	
<p>岐阜工業高等専門学校は、昭和38年4月に、機械工学科、電気工学科及び土木工学科の3学科を専門学科とする国立の5年制高等教育機関として設置されました。昭和43年には建築学科が、昭和63年には電子制御工学科が増設され5つの専門学科を持った学校として整備・拡充されました。さらに、社会の進歩や変革に見合った教育課程の改革を行うために、平成5年には土木工学科が環境都市工学科に、平成12年には電気工学科が電気情報工学科に改組されました。</p> <p>また、高専教育の一層の高度化を目指して、平成7年には学士の取得が可能な修業年限2年の専攻科が設置されました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻科改組の内容を追加する。</li> <li>・<a href="#">Gifu National College of Technology</a> を <a href="#">National Institute of Technology, Gifu College</a> に変更する。</li> </ul> <p>(適用：CMP2017)</p>
◆岐阜高専キャンパス（航空写真）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地面積 106,936 m<sup>2</sup></li> <li>・建物延面積 34,743 m<sup>2</sup></li> <li>・容積率 32.5%</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生数（定員） 1,040人</li> <li>・教職員 119人</li> <li>・学生寮収容人員 259人</li> </ul> <p>[平成24年4月1日現在]</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航空写真を平成28年度版に変更する。</li> <li>・建物延面積と容積率は、平成28年度実態調査面積に変更する。</li> <li>・学生数、教職員、学生寮収容人員は、平成28年4月1日現在に変更する。</li> </ul>

<p>◆将来構想に向けた施設整備（平成24年度整備）</p>	
<p>☆女子学生・女性教員のための環境改善  ☆ユニバーサルデザイン導入によるバリアフリー化の推進  ☆安全・安心な教育研究施設の確保  ☆施設マネジメントによる施設の有効活用に伴う整備  ☆環境に配慮した老朽設備等の再生整備  ☆学生の視点に立ったキャンパス・アメニティの向上</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>・既存施設の多くが、経年劣化のほか機能的な観点から新たな教育ニーズに対応できない施設機能の陳腐化が進行しています。</p> <p>・高等教育の充実に求められている多様な実践的・創造的技術者の養成等のための基盤施設として必要な機能を確保し続けるためには、既存施設の機能更新・高度化を含む老朽施設の再生整備を中心とした計画的な施設整備が必要であります。</p> </div>	<p>・H25、H27年度に整備した大規模改修（校舎改修（機械工学科系）と校舎改修（環境都市工学科系））と受変電設備改修（Ⅰ期・Ⅱ期）によるライフライン再生と1号館エレベーター設置（バリアフリー化）の内容を反映する。</p>
<p>02. 教育の目的・目標</p>	<p>点検・見直し</p>
<p>○教育の基本方針</p> <p>本校への多様な役割が期待される中であって、高等学校や大学とは異なる高等専門学校本来の魅力を一層高めるという使命に燃え、日本の産業構造の国際化ならびに高度化に伴う急速な変化に柔軟に対応できる学力や創造力に加えて、環境に配慮した人間性豊かで倫理観を備えた技術者を育成するということが本校の教育方針であります。</p> <p>教育理念、教育目標及びその具体的な内容は不断に改善し、計画的に教育・研究活動を実行しています。より具体的には、以下に示すような「教育理念」、「養成すべき人材像」及び「教育目標」を高く掲げ、教職員はその目標に向かって努力します。</p> <p>○教育理念</p> <p>(1) 科学技術に夢を託し、人類愛と郷土愛に目覚めること。</p> <p>(2) 国際性豊かで世界に羽ばたく気概を持つこと。</p> <p>(3) 情報化社会の最前線で活躍すること。</p>	<p>○教育理念(3)の「活躍」を「活動」に見直しする。</p> <p>○教育目標(1)の「教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成」を「教養豊かな技術者の育成」に見直しする。</p> <p>○教育目標は、【専攻科課程】の目標を追記する。</p> <p>(適用：CMP2017)</p>

<p>○教育目標</p> <p>(1) 広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成。</p> <p>(2) 基礎学力を身に付け、創造力、応用力、実践力を備えた技術者の育成。</p> <p>(3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成。</p> <p>(4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成。</p> <p>(5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成。</p>	
<p><b>03. 第2期中期計画</b></p>	<p><b>点検・見直し</b></p>
<p>(序文)</p> <p>独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 30 条の規定により、独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）が中期目標を達成するための中期計画（以下「中期計画」という。）を次のとおり定める。</p> <p>(基本方針)</p> <p>国立高等専門学校は、中学校卒業後の早い段階から、実験・実習・実技等の体験的な学習を重視したきめ細やかな教育指導を行うことにより、産業界に実践的技術者を継続的に送り出してきており、また、近年ではより高度な知識技術を修得するために 4 割を超える卒業生が進学している。</p> <p>さらに、これまで蓄積してきた知的資産や技術的成果をもとに、生産現場における技術相談や共同研究など地域や産業界との連携への期待も高まっている。</p> <p>このように国立高等専門学校にさまざまな役割が期待される中、高等学校や大学とは異なる高等専門学校の本来の魅力を一層高めていかなければならない。また、産業構造の変化等を踏まえ、創造力に富み、人間性豊かな技術者の育成という視点に立って、国立高等専門学校における教育の内容も不断に見直す必要がある。</p> <p>こうした認識のもと、大学とは異なる高等教育機</p>	<p>・ 第 3 期中期計画に変更する。</p>

<p>関としての国立高等専門学校固有の機能を充実強化することを基本方針とし、中期目標を達成するための中期計画を以下のとおりとする。</p>	
<p><b>◆岐阜高専の将来構想の進捗と課題</b></p>	
<p>I. 第2期中期計画期間における将来構想の進捗状況</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1). 入学者の確保（学生募集活動、入試方法の改善等、女子学生の確保）</li> <li>2). 教育課程の編成（学科再編、大括り化・コース制の導入、専攻科の充実）</li> <li>3). 優れた教員の確保（採用方針、女性教員採用、他機関との交流）</li> <li>4). 教育の質の向上・改善（自己点検評価、JABEE認定、共同教育、企業人材の活用）</li> <li>5). 地域連携基盤の構築と活動推進</li> <li>6). 他機関との連携による教育の高度化（国際交流の推進）</li> </ol> <p>II. 課題として認識している事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1). 優秀な入学者の継続的確保と卒業生の質の保証</li> <li>2). 就職支援体制の強化</li> <li>3). 学習障害のある学生の対処システムの構築</li> <li>4). 学生寮の充実</li> <li>5). 科研費採択件数の増加と大型外部資金の獲得</li> <li>6). 岐阜高専の国際化（国際交流推進）</li> <li>7). “地域交流の核としての岐阜高専” ビジターフレンドリーな高専キャンパス整備</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第3期中期計画に変更する。</li> <li>・ 国立高専機構施設整備5か年計画の内容を反映する。</li> </ul>
<p><b>04. 基本方針</b> <span style="float: right;">点検・見直し</span></p>	
<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ビジターフレンドリーな岐阜高専</p> </div> <p>岐阜工業高等専門学校の将来のビジョンを具現化するために、「キャンパスの現状と課題」を踏まえ、長期的視点に立った施設整備の基本方針を次のとおり掲げる。</p> <p><b>【Local】：地域交流の核としての岐阜高専</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元産業界との共同技術開発等が推進できるキャンパス</li> <li>・ 周辺地域と連携し、防災機能を発揮した拠点となるキャンパス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <del>特に問題なし</del></li> <li>・ <del>(適用：CMP2017)</del></li> <li>・ 伊藤先生の考えを反映する。</li> </ul>

<p><b>【Charm】：学生にとって魅力のある岐阜高専</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主動線が明確化した分かりやすいキャンパス</li> <li>・学生にとってリフレッシュできる居心地のよいキャンパス</li> </ul> <p><b>【Global】：グローバル人材を育成する岐阜高専</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際的に活躍できる技術者の育成及び実践的技術者の養成を目指した学習環境が整ったキャンパス</li> </ul>	
<p><b>05. 第3次5か年計画表</b></p>	<p><b>点検・見直し</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次計画表</li> <li>・（第3次）5か年整備計画図</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4次5か年計画表に変更する。</li> <li>・第4次5か年整備計画図に変更する。</li> <li>・<b>国立高専機構施設整備5か年計画の内容を反映する。</b></li> </ul>
<p><b>06. 将来計画建物</b></p>	<p><b>点検・見直し</b></p>
<p><b>◆科学技術リテラシーセンター</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会を対象にした“科学技術リテラシー教育”、岐阜高専OBの力を借りた地元企業技術者の学び直しを支援する“中核人材育成塾”は、受講者の評判が高く、外部機関からも平成21年度および平成23年度日本工学教育協会賞業績賞、平成21年度野依科学奨励賞を授与され、教育プログラムとして高く評価されている。</li> </ul> <p>地域の教育センターとしての機能を、新たな“科学技術リテラシーセンター”として設置し、発展的に移設させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<del>H31年度整備計画に向けた検討が必要である。</del><b>H33年度以降の計画とする。</b></li> <li>・計画位置の変更が必要である。 (現状の位置では、水泳プール・排水処理施設等の解体が必要である。水泳プールは、新武道館（プール含む）建設後に解体となる。新武道館建設には、安藤記念館・器具庫等の解体が必要であるが、安藤記念館はH27年度に施設整備費補助金にて照明器具改修（落下防止対策）を行ったため、H37年度まで安藤記念館の解体ができない。現状の位置では、H37年度まで整備ができない。)</li> <li>・<b>専攻科生の不足した教育スペースを確保しなければならない。専攻科棟とリテラシーセンターを接続させ、リテラシーセンター内に専攻科生の教育スペースを確保してはどうか。また、6号館にも接続させ、6号館からもアクセスできるようにしてはどうか。</b></li> <li>・<b>リテラシーセンター内にラーニング・スペースを整備し、使い方を検討する。</b></li> </ul>

06. 将来計画建物	点検・見直し
◆多文化交流棟（防災拠点集会所）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生交流関連情報の発信機能を備えた国際交流活動の場、地域住民との相互理解を促進する機能として、地域と連携する学習支援活動の場を“多文化との共生空間”として設置する。</li> <li>・外国人との相互コミュニケーションを図り、多様な価値観に触れる機会を確保するための国際交流スペースを整備すると同時に、外国人研究者の受け入れ体制を整えた宿泊施設を併設する。</li> <li>・防災教育及び防災拠点の施設として、災害発生時の活動拠点となりうる設備を備え、自然エネルギーを最大限に活用した集会所的な建物を整備する。</li> <li>・多文化交流棟の付近は防災広場として、備蓄保管設備、耐震貯水槽、防災トイレ、防災ファニチャー等を整備する。 また、スポーツ交流と称して、多目的コートを整備し、フットサル・テニス・バレーボール等によるスポーツ交流を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H32年度整備計画に向けた検討が必要である。（木造職員宿舎13棟取壊しを合わせて計画する。）</li> <li>・職員宿舎1号（鉄筋コンクリート造3階）を宿舎の中で最後に解体・廃止した場合に、多文化交流棟（防災拠点集会所）計画位置を職員宿舎1号の南側に変更（移動）してはどうか。</li> <li>・防災広場範囲に、災害時支援が可能なコンビニエンスストアを計画してはどうか。</li> <li>・ZES（ゼス：ゼロ・エネルギー・スクール）を目指す。</li> <li>・多文化交流、防災拠点施設としての考え方・対応関係を整理する。</li> </ul>
◆教育実践センター（スチューデントcommons）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナールーム、プレゼンテーションルーム、自習ルーム、情報エリア、カフェエリアを併設し、学生同士あるいは学生と教職員が、総合的な学習活動を自由に展開できる“学生のための共有空間”を設置する。</li> <li>・1号館と図書館を渡り廊下で繋ぎ、その中心に誰もが利用しやすい開放型で主体的な学びをサポートする“スチューデントcommons”を整備する。</li> <li>・図書館に隣接する位置にあることで、豊富な参考資料文献を利用することができ、活発にディスカッションする事ができるスペースとして整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30年度整備計画に向けた検討が必要である。（校舎改修（図書館）のラーニング・commonsやアクティブ・ラーニング・スペース導入計画、新築による図書館機能増強等と併せて検討する。）</li> <li>・教育実践支援センターにしてはどうか。</li> <li>・図書館ラーニング・commonsとスチューデントcommonsを併せたラーニング・スペースを低学年が使用し、リテラシーセンター内のラーニング・スペースを高学年が使用するなど、ラーニング・スペースの使い方を検討する。</li> </ul>
◆体育施設の集約整備	
<p>昭和40年代に建設された武道館・安藤記念館、屋内運動場、プール、器具庫等をスクラップ&amp;ビルドに</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育教員室の移転先が新武道館であることを追記する。</li> </ul>

<p>より集約整備し、時代のニーズに対応できる設備を備えて、「心・技・体」人を育てる“新武道館”を設置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新武道館には、文化系施設の活動拠点も併設し、文武共に学び活動できるスペースを整備する。</li> <li>・体育施設の集約整備後は、正門から西門に抜ける車道及び駐車スペースを整備し、車を利用した保護者等の待機場所を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新武道館の建設は、H38 年度以降の計画とする。</li> </ul>
<p><b>◆共通ゼミ棟の整備</b></p>	
<p>昭和40年代に建設された体育教員室等を解体撤去し、学科間の障壁を除いた待避校舎の機能を併せ持つ“共通ゼミ棟”を設置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育教員室跡地は、外構整備重点エリアとしてメイン玄関から開放感あふれる空間を演出できるよう整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育教員室の解体撤去（跡地利用共）の内容は、共通ゼミ棟の整備と直接関係しない。（共通ゼミ棟の内容を具体的に表記する。）</li> <li>・1号館で不足している会議スペースを確保できないか。</li> </ul>
<p><b>07. 配置図</b></p>	<p><b>点検・見直し</b></p>
<p><b>配置図1（キャンパスの現状把握と課題の抽出）</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスの現状把握と課題の抽出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1号館増築棟（エレベーター）を追記する。</li> <li>・職員居住エリア範囲は、職員宿舎19号敷地範囲の追加が必要である。</li> <li>・課題抽出ポイントが全て反映できていない。解消された課題、新たな課題等がわかるようにシンボルを変えて表示してはどうか。</li> </ul>
<p><b>配置図2（キャンパスの現状把握とゾーニング及び動線計画）</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスの現状把握とゾーニング及び動線計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1号館増築棟（エレベーター）を追記する。</li> <li>・職員居住エリア範囲は、職員宿舎19号敷地範囲の追加が必要である。</li> <li>・解体予定建築物である水理実験室、風洞</li> </ul>

	実験室、庭球（テニス）器具庫、電気実験準備室、バス車庫、守衛室等は、解体後の移設先を検討する。
<b>07. 配置図</b>	<b>点検・見直し</b>
<b>配置図3（キャンパスの現状把握と課題の整理）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスの現状把握と課題の整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1号館増築棟（エレベーター）を追記する。</li> <li>・職員居住エリア範囲は、職員宿舎19号敷地範囲の追加が必要である。</li> <li>・解体予定（附属施設の集約化）建築物である水理実験室、風洞実験室、庭球（テニス）器具庫、電気実験準備室、バス車庫、守衛室等は、解体後の移設先を検討する。</li> <li>・自転車置場の集約化について検討が必要である。（学年ごとに配置）</li> </ul>
<b>配置図4（将来計画）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1号館増築棟（エレベーター）を追記する。</li> <li>・防災拠点エリア範囲（職員居住エリア範囲）は、職員宿舎19号敷地範囲の追加が必要である。</li> <li>・科学技術リテラシーセンター計画位置の変更が必要である。</li> </ul>
<b>配置図5 詳細計画－1</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細計画－1 <ul style="list-style-type: none"> <li>①ゾーニング計画</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1号館増築棟（エレベーター）を追記する。</li> <li>・防災拠点エリア範囲（職員居住エリア範囲）は、職員宿舎19号敷地範囲の追加が必要である。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学技術リテラシーセンター計画位置の変更が必要である。</li> <li>・図書館と教育実践センターのエリアは、ラーニング・スペースとして特色のあるエリアとして、地域交流エリアから別のエリア（リテラシーセンターと同じエリア）に変更してはどうか。</li> </ul>
07. 配置図	点検・見直し
配置図6 詳細計画－2	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細計画－2 <ul style="list-style-type: none"> <li>②パブリックスペース計画</li> <li>③動線計画</li> <li>④建物配置計画</li> <li>⑤環境・建築計画</li> <li>⑥インフラストラクチャー計画</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1号館増築棟（エレベーター）を追記する。</li> <li>・防災拠点エリア範囲（職員居住エリア範囲）は、職員宿舎19号敷地範囲の追加が必要である。</li> <li>・科学技術リテラシーセンター計画位置の変更が必要である。</li> <li>・②パブリックスペース計画の配置図に3本のグリーンベルト（【けやき並木】、【糸貫川沿い並木】、【西側道路沿い並木】）を表記する。</li> <li>・糸貫川沿いの景観の保全として、糸貫川上流でホテル観賞ができる件を表記できないか。</li> <li>・⑥インフラストラクチャー計画の配置図に、水・電気・ガス・情報供給スポットを追記する。</li> <li>・②パブリックスペース計画に、キャンパスの美観、緑地（保全）整備計画の内容を具体的に反映する。</li> </ul>
配置図7 詳細計画－3	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細計画－3 <ul style="list-style-type: none"> <li>⑦将来施設計画</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■多文化交流棟（防災拠点集会所）の「交際交流活動」を「国際交流活動」に訂正する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1号館増築棟（エレベーター）を追記する。</li> <li>・ 科学技術リテラシーセンターの計画位置の変更が必要である。</li> <li>・ 体育教員室の解体撤去（跡地利用共）の内容は、共通ゼミ棟の整備と直接関係しない。（共通ゼミ棟の内容を具体的に表記する。）</li> </ul>
<p>参考資料</p>	<p>点検・見直し</p>
<p>キャンパスの現状把握及び課題の抽出</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <del>改善済の内容（文章）は、削除する。</del>  <del>（番号4の文章「校舎側にEVの設置が必要」は削除、番号35・36は校舎改修（環境都市工学科系）で改善済であるため削除、番号77は70年代・80年代創出で改善済であるため削除、番号78は校舎改修（機械工学科系）で改善済のため削除、番号74～76は玄関部整備で改善済であるため削除）</del>解消された課題、新たな課題等がわかるように表示してはどうか。</li> <li>・ 「科学技術リテラシー教育推進センター」を「科学技術リテラシーセンター」に訂正する。（番号49他）</li> <li>・ 番号58～60の課題に「将来撤去予定」を表記する。</li> <li>・ 番号66～68の課題の「体育教官室」を「共通ゼミ室」に訂正する。</li> <li>・ <del>番号66～68の課題の「体育教官室」を「体育教員室」に訂正する。</del></li> <li>・ <del>番号4・8・17・65・70は、改修後・整備後の写真に変更する。</del></li> <li>・ ②の「学校の顔としての整備、地域交流を促進する演出」については、防災拠点エリア側についても検討が必要である。</li> <li>・ ②：正門の北側道路横断歩道部に学生の安全確保のため、押しボタン式の信号を設置できないか。</li> </ul>

## IV. キャンパス整備ワーキンググループメンバー

・ 校長（ワーキンググループ長）	伊藤 義人
・ 教務主事	熊崎 裕教
・ 研究主事	和田 清
・ 学生主事	久保田 圭司
・ 寮務主事	麻草 淳
・ 建築学科准教授	今田 太一郎
・ 建築学科准教授	櫻木 耕史
・ 事務部長	澤田 利夫
・ 総務課長	蒲 美登子
・ 学生課長	山口 敏也
・ 総務課施設係長	今井 利城

### 【 点検・見直し(案) 打合せ記録 】

- H28. 06. 29 : 蒲総務課長、松浦総務課長補佐
- H28. 06. 30 : 澤田事務部長
- H28. 07. 05 : 建築学科 今田准教授、櫻木准教授
- H28. 07. 21 : 伊藤校長
- H28. 08. 02 : 第1回キャンパス整備WG会議

